

# 2016NAVI 小学生ドイツキャンプ報告書

## (第24回ドイツ・ケーニヒ杯)

報告者 齊藤三枝子

1、派遣期間 : 2017年 平成29年3月12日(日)～21日(火)

2、開催地 : ドイツ国、ハレ市

3、日本選手 : 選手 8名  
 団長・総務・コーチ 齊藤三枝子 (引率)  
 コーチ 千葉睦子

保護者 6名

合計 14名

### 4、日程

月日(曜)	地名	現地時間	交通機関	予定
3月12日 (日)	東京(羽田)集合 羽田 発  ミュンヘン着 発 ライプチヒ 着	10:45 12:45  16:50 18:40 19:40	LH715   LH2170 ハレ協会送 迎バス	集合場所(国際線カウンター中央)  直行便ミュンヘンへ 所要時間約12時間 国内便ライプチヒへ ハレ市フェンシング協会ご好意でハレ市内ホテルへ
3月13日 (月)	ハレ市内	9:45 10:00  18:00～ 20:00	バス 電車周遊券 バス	スーパーで水分調達 ロビー集合 スポーツ学校 案内 見学 昼:学食にて ハレ市観光 夕刻よりトレーニング会場で練習 ホテルへ
3月14日 (火)	ハレ市内 ライプチヒ市内	7:00   18:00～ 20:00	バス   バス	スポーツ学校にて練習 昼:学食にて 自由時間(スーパーで水分等調達) 夕刻よりトレーニング会場で練習 ホテルへ
3月15日 (水)	ハレ市内 ライプチヒ市内	10:00 16:00 18:00～ 20:00	バス 電車移動 バス	ライプチヒ市内文化視察 ホテルへ 他クラブ集合の為トレーニングを入れるその後ホテルでサプライズ夕食
3月16日 (木)				3月14日と同じ

3月17日 (金)		15 : 30~18 : 30	送迎車	自由時間 (スーパーで水分等調達) 大会会場で武器検査とトレーニング ハレ市協会ご好意の送迎車
3月18日 (土)	Sporthalle Brandbrge	8 : 00  8:00 9:30 10:00	送迎車	B-youthの試合 (2003,2004生まれ) 武器検査 コール 試合開始
3月19日 (日)	Sporthalle Brandbrge	8 : 00  8:00 9:30 10:00	送迎車	Cadetsの試合 (2000,2001,2002年生まれ) 武器検査 コール 試合開始
3月20日 (月)	ホテル 発 ハレ市内  ライプチヒ発 機体故障の為変更	10 : 30  12 : 55 ↓ 14 : 25	送迎車  LH2167 ↓ LH2163	帰国準備 ホテルからハレ市内へ ライプチヒ空港へは路面電車予定 (小銭用意) ⇒ 変更で送迎車 国内便ミュンヘンへ ↓ フランクフルトへ
3月21日 (火)	フランクフルト着 フランクフルト発  東京 (羽田 着)	15 : 25 17 : 50  13 : 05	LH716	直行便にて羽田へ  通関後、解散

大会責任者

Olaf Wolf

E-mail Fechtzentrum-Halle@t-online.de

phone 0049-345-6876532

mobile 0049-175-7361547

ホテル

H+Halle

phone:0049-345-56470

## 5、競技成績

	Name	club	cadets	b-youth 2002	b-youth 2003～4
男子	福田 亮介	はしまモア FC	3位/89		1位/39
男子	加藤 那琉	KIRI Jr. フェンシングチーム	38位/89		5位/39
男子	高橋 康希	S.E.A スポーツクラブ	44位/89		3位/39
男子	黒澤 塁	光ヶ丘フェンシングクラブ	49位/89		13位/39
女子	曾根寿々佳	レ・フレール愛媛	25位/57		9位/25
女子	千葉 穂波	一関スポーツ少年団	3位/57		2位/25
女子	山田ひなた	中京大ジュニア	1位/57		1位/25
女子	小野 瑞葵	S.E.A スポーツクラブ	36位/57		5位/25

## 6、日本語アシストについて

☆現地在住の日本人女性（桂川茜さん）は今回で 3 度目のお願いになり益々の力強いサポートを受けた。

毎回ライブチヒ空港の出迎えから対応して頂き安心したキャンプの日々となった。後半のケーニヒ大会での試合内容の変更や帯同審判員の 2 日間契約を 1 日で終了させたいとのお願い事等、通訳以上の対応で主催側との板挟みを強いてしまい申し訳なかった。

過去 2 回の帰国時はハレ市 F 協会のクラウディアさんのアシストだったが今回は桂川氏とお 2 人での見送りと言う事で安心していた。

ドイツ国内便機体故障の為キャンセルの電光掲示板を見た時素早くお 2 人がルフトハンザ航空と交渉をして別便の手配を整えてくれた。

延泊決定から翌日の計画や連絡は通訳の桂川氏なしではどうにもならなかった。

## 7、トレーニングについて

☆スポーツ学校の校長先生から学校内容の説明を受け、見学者全員に赤い T シャツをプレゼントされた。授業中の教室やバドミントン授業中の体育館、水泳指導中のプール、板飛び込みのオリンピック選手だった方の為に作られたプールでこの学校の先生をされているとの事。いつの間にか見学中の私達の後ろにその先生が現れ驚いた。空き教室に入りさらに話が聞けた。（日本からの留学生も受け入れるが語学をクリアさせ、さらには入学試験に合格しなければならないとの事。曾根寿々佳さんを筆頭に興味深く目を輝かせていた。）フェンシング競技の専門生徒は 13～4 名と他の競技に比べると非常に少ない。低学年と高学年の 2 コマのトレーニングに参加させてもらいたっぷり汗をかいた。

また別のトレーニング会場でも他クラブ集合でウォーミングアップからフットワーク、アソーまで毎回新鮮な動きに一生懸命取り組んだ。

ハレ市F協会のクラウディアさんは日本語をPCで調べて「一緒にフェンシングをしましょう！」と数枚を画用紙に印刷し配りアソーに活用して積極的で熱のこもったトレーニングになった。

今回も女子エペのヨーロッパチャンプ（数回）のIMKEさんによるウォーミングアップ指導を受けた。背が高くがっしりとした体格、精悍な顔つきの人物であり、ドイツ語のウォーミングアップとフットワークまでたっぷりご指導頂き選手達にとって貴重な体験となった。

またオリンピック強化拠点のタウバービショフスハイムのジュニア強化コーチの指導も受けた。8ビートの音楽を流したフットワークは特に女子達から「超楽しい！！」と声が聞こえた。日本とドイツの選手同士の対面レッスンではドイツ語用語に四苦八苦の状態だったが収穫は多く、満足感が得られた。

## 8、大会について

☆日本チームとして10年以上もの間参加し続けている伝統のある大会と承知していたが大会の試合方法が良く理解できなかった。その後、直ぐに切り替えを行いスムーズに試合に参加できた。

☆会場は室内競技場でトラックバンクがありフィールド部に24ピストの設置がある

☆プール2回戦の後にエリミになり、敗者復活のエリミはナシと告げられた。

☆日本チームは総合優勝をした。

## 9、渡航について

☆今回の羽田出発時の重大なトラブルについて

保護者でコーチを依頼していた千葉睦子さんのパスポート期限まで3ヶ月余裕があり手続は済んでいたにもかかわらずチェックインカウンターでドイツの規定だと3日足らずで渡航出来ずと告げられコーチを欠いて出発した。

後日イスタンブール乗り継ぎ10時間待ちの別便で4日後合流した。帰路も別ルートで1人旅となった。

☆全ての日程を終えて帰国のライプチヒ空港に到着すると搭乗予定の飛行機が期待故障のため決行となっていた。延泊の決定がくだされ、宿泊するホテルの確保、日本への連絡やアドオンの確認、保護者への連絡を行った。その後、二転三転の結果、ルートを変えて当初の到着時間より2時間遅れで帰国出来た。

## 10、その他

☆出場選手が昨年までの半分でまとまり易いと思っていたが、例年と異なり海外キャンプとして行われた為に期間が2日長く、小学6年生には精神的にきつuitと思われた。

上記のような状況を鑑み体力的には十分配慮した。

だんだん慣れて来て日本の小学生代表の意識が無くなった頃、仕方がない事だが我がままや遅刻や用具忘れ等の行為が目立ったため、生活面での厳しい注意を与えた。

- ☆ 去年の経験者が半数いたので「ダンケシェン」が移送の運転手にもしっかり言えていた。
- ☆ 今回同行していないお母様達の発案で卒業式に出られなかった選手の為にサプライズパーティーの時間をとった。
- ☆ 武器検査  
マスク、メタルジャケット、グローブ、ビブケーブル（コイル状のものはダメ）  
剣とボディーコードはナシ

### あとがき

次年度も計画があれば日本語アシストには桂川茜氏にお願い出来たら良いと思う。

毎日がスムーズに進み安心安全に有意義な時を過ごせたのも、関わって頂いた吉澤博通先生を始め保護者の皆様、関係者一同に感謝を申し上げたい。

